

令和7年度

発達障害のある中学生・高校生のためのライフスキルトレーニングの実践と評価

【姫路大学 発達障害支援グループ（連携課：育成支援課、こどもの未来健康支援センター）】

研究の目的（背景・課題・意義）

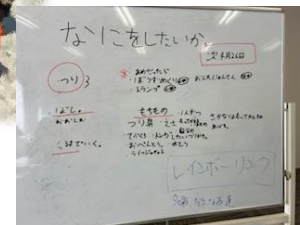
中学生・高校生相当年齢の発達障害児は、対人関係や自己管理に困難を抱えながらも、十分な支援を受けにくい現状がある。本研究では、彼らが主体的に活動できる場を提供し、社会性や自立に向けた力を育むとともに、保護者の不安や孤立感を軽減する支援体制を整備する。支援の実効性をレジリエンスという観点で評価しながら、地域保健・福祉と教育支援の両側面から包括的な支援のあり方を検討する。

研究内容・主な実施計画

- ◆発達特性のある中学生・高校生相当年齢の方を対象に、自己理解・対人関係・社会性を育むライフスキルトレーニングを月1回実施
- ◆活動は「計画日」と「実行日」を交互に設定し、参加者自身が企画・実行・振り返りを行う構成
- ◆支援内容は、金銭管理、公共交通機関の利用、買い物、地域イベント参加など実生活に即した訓練
- ◆保護者向けには年2回程度の相談会を実施し、育児不安や孤立感の軽減を図る
- ◆子どものレジリエンス評価には「CYRM-R日本語版」、保護者には「PREQ」を使用し、半年ごとに効果測定

【2025年度活動例】

- 3月：オリエンテーション・活動企画
- 4月：屋外活動（海辺の釣り）
- 5月：次回活動の話し合い・保護者茶話会
- 6月：公共交通機関を使った外出
- 7月：次回活動の話し合い・保護者茶話会／活動の初回評価
- 8月：生活訓練（買い物・金銭管理）
- 10～11月：地域イベント・大学祭への参加
- 12～3月：ライフスキルプログラムを継続しながら、振り返り・成果評価・報告書作成



※看護・教育分野の学生も支援に参画し、対人支援力の実践的育成の場とする

※活動は姫路大学健康・教育実践研究センターを拠点に、姫路市の関係課と連携して実施

※継続可能な地域支援モデルの構築を目指し、2026年度以降も活動を継続予定